

## 【50周年記念特別企画】

## 日本化学療法学会創立前の二、三（特別発言）

上 田 泰  
東京慈恵会医科大学



## I. 化学療法との出会い

抗菌薬化学療法に興味をもった理由のひとつは梅澤濱夫先生(東大)との出会いであった。

1941年(昭和16年)、筆者は習志野陸軍病院に軍医として召集された。そこに梅澤先生がおられた。梅澤先生のこの方面への研究に取り組む姿に教えられるものが多々あった。

## II. 佐々貫之先生の講演

戦後はじめての第43回日本内科学会総会は1946年(昭和21年)4月、焦土の東京をさけて、静岡県伊東市の高等女学校(現:静岡県立伊東高等学校)で開催された。そこで佐々貫之先生(東大)が「ペニシリンと肺炎」と題して特別講演をされた。ペニシリンという薬を使うとたちどころに肺炎は治せる時代が来るのだという話に大きな感銘を受けた。

1947年(昭和22年)10月、第9回日本内科学会関東地方会において佐々先生が「本邦ペニシリン療法の現在および将来、特に内科的疾患のペニシリン療法について」という特別講演をされた。これらの佐々先生の講演などもあって化学療法学会の創設という気運が次第に盛り上がっていったと思う。

思えば焼け野が原から少しずつ復興しているとはいっても、食べるものもままならない時代の話である。

## III. 学会設立の気運

1951年(昭和26年)頃、化学療法学会を作ろうという話が具体的に出来るようになってきた。鳥居敏雄先生(東大内科)、石山俊次先生(東大外科)、島田信勝先生(慶大外科)、久保郁哉先生(昭和大内科)、上田泰(慈恵医大内科)、そして抗生物質学術協議会の八木澤行正氏、萬有製薬の岡林金次郎氏らその他が中心になって、発会に向けて幾度か会合を重ねた。

最初の会合は、慶應病院の真向かいのそば屋「武蔵屋」の2階で開かれ、数時間話し合いがもたれた。

## IV. 第1回日本化学療法学会総会の開催

第1回の総会は佐々先生を会長として1953年(昭和28

年)7月4日慶應大学北里講堂で開催された。特別講演として秋葉朝一郎先生(東大)が「薬剤耐性の獲得と阻止の機序」と題しての講演、一般演題44題と第1回の総会としては大成功であったことを覚えている。

とにかく物珍しいこともあったと思うが、予想以上に大勢の方々が参加された。学会の性質上、日本のすみずみまで速やかに広げる必要があるとの考えで、第10回まではこのような視点で会長を選ぶことにした(表1)。

表1. 総会歴代会長と開催地

回	年 度	開催地	会 長	所 属
1	昭和28	東 京 都	佐々 貫之	関東通信病院
2	昭和29	大 阪 府	堂野前維摩郷	大阪大学(内科)
3	昭和30	京 都 市	青柳 安誠	京都大学(外科)
4	昭和31	名古屋	青山 進午	名古屋大学(内科)
5	昭和32	仙 台 市	黒屋 政彦	東北大学(細菌学)
6	昭和33	福 岡 市	樋口謙太郎	九州大学(皮膚科)
7	昭和34	東 京 都	美甘 義夫	東京大学(内科)
8	昭和35	札 幌 市	鳥居 敏雄	北海道大学(内科)
9	昭和36	京 都 市	山本 俊平	京都大学(皮膚科)
10	昭和37	東 京 都	市川 篤二	東京大学(泌尿器科)

## V. 社団法人日本化学療法学会

今回、文部科学省が本学会を社団法人と認めたことは、本学会の創立の意義を高めるものである。会員の方々には本学会が将来にわたって、日本においてもっとも有用な学会の一つでありつづけるよう努力していただきたいと思う。

次の50年の前進に向けて社団法人日本化学療法学会がいっそう、さらに発展することを会員のひとりとして熱望するものである。

この機会を与えていただいた熊澤浄一理事長、第50回記念総会の守殿貞夫会長に心より御礼申し上げるものである。